

# 乳がんを

## 見逃さないために



西条市医師会 会員  
西条中央病院 外科  
医師 小野仁志

生存率が低下します。

乳がんの診断や治療は年々進歩していますが、乳がんによる死者数を低下させるには、早期に発見し、治療を開始することが求められます。そのためには、自己検診を定期的に行って自分で異常を発見するか、また症状が無くても検診を受けましょう。

### 自己検診

乳がんの患者さんが増加しています。日本の男女合わせたがん罹患者は、1位が大腸がん、2位が肺がん、3位が胃がん、4位が前立腺がん、5位が乳がんです。

しかしながら、女性に限ると乳がんが1位で、1年間に約9万人が罹患し、約1万4千人が死亡しています。働き盛りで、家族にとって特に重要な時期に発症し、罹患のピークが40歳代後半、死亡のピークが60歳代前半である点が、乳がんの特徴です。

早期の乳がんである病期Ⅰの場合、5年生存率が99%、10年生存率が93%で治すことが可能ですが、病期が進むと

浴後に、鏡の前で両手を下げた状態と上げた状態で乳房をチェックします。また、おむけになった状態で乳房や脇の下を触って、しこりや堅いところがないか、乳首から分泌物がないか確認します。

乳房にしこりがある、乳房にひきつれ・くぼみがある、乳首から分泌物が出る、乳首の陥没やただれ・変形がある、脇の下のリンパ節が腫れ、ぐりぐりが触れるなど、気になることがあった場合には、医療機関（外科あるいは乳腺外科）を受診しましょう。

しかし、自己検診で異常が無くても、放っておいて良いわけではありません。市町村のがん検診などを受けましょう。西条市でも、40歳以上の女性に2年に1度、マンモグラフィー検診を勧めています。

市町村の検診以外に、職場検診や任意型検診（人間ドック）も効果があります。

### マンモグラフィー検診

検診は、自分では特に異常を感じなくても、定期的に行うがんのチェックです。40歳以上、2年ごとに推奨されているマンモグラフィー検診を受

けることで、死亡率が低下することが証明されています。マンモグラフィーは、乳房を圧迫板ではさみ、専用の装置を用いて行うX線撮影のことです。

以前は、触診による乳がん検診が行われていましたが、現在は、マンモグラフィー検診が重要であることが分かってきました。マンモグラフィー検診は、触診では分からない早期の乳がんの石灰化を見つけることができます。また、非浸潤性乳管がんなどの早期がんも見つけやすいです。石灰化は超音波検査では不明なことが多く、乳がんの早期発見には、超音波検査よりマンモグラフィー検診が優先されます。

### マンモグラフィー・超音波併用検診

現時点では、マンモグラフィーと超音波検査を同時に行う検診は、任意検診（人間ドック）や職域検診のオプションによるものも多く、市町村の検診では行っていない地域がほとんどです。

自己検診で症状がある人や、検診結果に異常があった人は、外科、乳腺外科などの医療機

関を受診し、精密検査を行う必要があります。

### 精密検査

マンモグラフィー再検や超音波検査を行い、乳がんなどを疑う所見が認められた場合、細胞診や乳腺針生検（組織診）を行い、乳がんか否かを診断します。乳がんと診断された場合、乳がんの広がりや、転移の有無を調べる検査（CT、MRI）を行います。乳がんの組織診断により、組織型やホルモンレセプターの有無、がん抗原（ハーツー抗原）の有無が判明し、がんの性質が分類され、治療方針が決まります。

検診などで乳がんが疑われた場合でも、精密検査の結果乳がんではなく、線維腺腫や嚢胞などの良性病変であることも多いです。心配しすぎて医療機関を避けることなく、ぜひ早めに診断し、安心して生活してほしいと思います。

### まとめ

乳がんを見逃さないために重要なことは、自己検診をすること、自覚症状がなくても検診を受けることです。